

第5回人間作業モデル全国事例検討会のご案内

これまで各地区の人間作業モデルに関心を持つ方々が集まり、事例検討会を実施してきましたが、2023年3月から全国の方々を対象として人間作業モデルの事例検討会を開催することになりました。今回で4回目です。次回に発表したいとお思いの方の参加も大歓迎です。

開催はリモートで実施しますので、どこからでも参加できますので、どうぞご参加下さい。以下に発表の要旨を添付します。

日時 8月25日(日) 13時～17時

参加費 一般4,400円、賛助会員・学生3,300円

発表者・世話人2,200円

発表時間 20分 質疑 30分

込みください。締切は8月20日(火)です。参加者には当日までに発表のパワーポイントをお送りしますので、ご覧ください、質問をしてください。

ミニレクチャーを用意しようと思いましたが、今回は4演題と多いので、時間の都合上、実施しません。

なお、OT協会のポイントが付きます。

参加する方はホームページの事例検討会からお申し

演題1

回復期リハビリテーション病棟の入院患者に対して人間作業モデルを用いた作業療法実践により 入院中のストレスが軽減した事例

北九州古賀病院 山本 祐輔

入院は、ほとんどの人にとって、人生の中で経験するストレスが多い状況である。高齢者は抑うつになりやすく、その抑うつはストレスとの関連が強いとされている。今回、第1腰椎圧迫骨折で当院回復期病棟へ入院した患者に対し、作業療法の理論の一つである人間作業モデルの概念を用いた介入によって、入院中におけるストレスが軽減した。事例はN氏、80歳代の女性で、診断名は、第1腰椎圧迫骨折で、自宅内で受傷した。独居で、娘が3人いますが、時々訪ねてくる程度とのことでした。ストレスに関する評価、作業に関する自己評価を実施し、介入は入院から作業導入前までの時期（14病日～30病日）、作業（和紙）導入から一作品が完成した時期（30病日～53病日）、退院までの和紙での作品作りを行う時期（67病日～85病日）に分けて検討した。結果は病前行っていた活動が今の自分でも行える状態だと再認識し、作業自体がこんなにも楽しい時間であることに気づくことができた。これにより趣味人としての役割が付与され、毎日の作業療法が余暇としての位置づけに変化したと考えた。

演題2

安全な居場所の提供と対人交流の促進が意志に変化をもたらした 薬物依存症とアルコール依存症を併存した一例 ～作業に関する自己評価を使用した関わりを通して～

医療法人社団アパリ アパリクリニック 大塚 泰史

事例は薬物依存症とアルコール依存症を持つ60代男性である。過大な有能感と自己中心的な行動によって対人トラブルを繰り返し、飲酒に及んでいた。DCで作業に関する自己評価(OSA)を実施したことをきっかけに価値が変化し、自身の抱える問題に向き合い始めた。OSA実施時の語りをもとに、事例が望む安全な環境や興味ある作業、役割を通じて対人交流を促した結果、対人認知が改善し、個人的原因帰属に変化をもたらした。また、DC参加に意味を見出し、OSAを使用した面談を継続する意欲を見せるに至った。

演題3

若年性くも膜下出血後抑うつを示したクライアントにMOHOを活用した結果 抑うつが改善した事例

足利赤十字病院 小野寺 聖史

本事例は、30代男性、くも膜下出血後、回復期入棟となった。当初、「どうせ良くならないのにリハビリをしても意味がない」などと抑うつ的発言が聞かれ、ADLは食事以外全介助であった。自宅退院を強く望んでおり、MOHOを用いてリーズニングを行い、意志に問題があると考えた。また、家族みんなで過ごしたいという思いから夫・父親としての役割を果たすために必要である生活行為を再認識させた。その結果、個人的原因帰属の変化を認め、自己効力感や抑うつ状態が改善し、リハビリを意欲的に取り組むようになり、自宅退院につながった。

演題4

自宅で家族と暮らす事に価値を置いている90代女性 ～発語に対する自信を付けるためのかわり～

株式会社AT 訪問看護アットリハ伊勢原 高橋 勇大

自宅で息子様と2人暮らしをする90代女性を担当した。脳梗塞発症後から四肢運動障害と発語困難が出現し、身体の動かしくさから日常生活に介助を要すようになり、息子様をはじめ家族と円滑なコミュニケーションが出来ないことで自信を失い、家族に対する易怒性が出現していた。言語聴覚場面では発語訓練を好まない様子が見られていた。作業療法場面では環境調整と意志面の向上を中心に、発語に対する自信を持てる様工夫して関わった結果、発語量が増え自分の思いや現状について表現出来る様になった。また、生活場面においても自身で出来る事柄が増える様子が見られた。環境に対する配慮や発語能力向上に対しては多職種間で協力して関わった。人間作業モデル(以下MOHO)による評価介入で、対象者の会話場面における良い変化が見られたため報告することとした。

人間作業モデル認定セラピスト

以下の両項目の基準を満たした者に対して、人間作業モデル認定セラピストの申請を認める。

- (1) MOHO講習会（2日間の講習会）を2回以上、あるいは2日間の講習会と一日講習会入門編と治療編の両方を受講した方
- (2) 作業行動研究に事例報告を1編以上掲載
申請は一社 日本作業行動学会へ

事例報告の基礎は事例発表ですから、事例検討会に奮って参加しましょう。

人間作業モデル認定セラピストは、日本作業療法士協会の認定作業療法士取得要件の一つである事例報告が免除されます。（日本作業療法士協会の他団体・学会等の資格認定の件を参照のこと）



一般社団法人 日本人間作業モデル研究所

東京都荒川区西日暮里1丁目3-3-1301

後援 一般社団法人 日本作業行動学会